

農業排水モニタリング調査

岡村 貴司

◆背景・目的

琵琶湖の環境は排水の流入により様々な影響を受けている。特に、農業排水により、栄養塩の増加などの無機環境への負荷や魚類の忌避行動が生じるほか、残留農薬などの流入による生物への影響が懸念される。

本研究ではモニタリング調査等を継続的に実施し、琵琶湖への負荷の状況や環境の動向を把握することを目的とする。

◆成果の内容・特徴

○農業排水モニタリング調査*

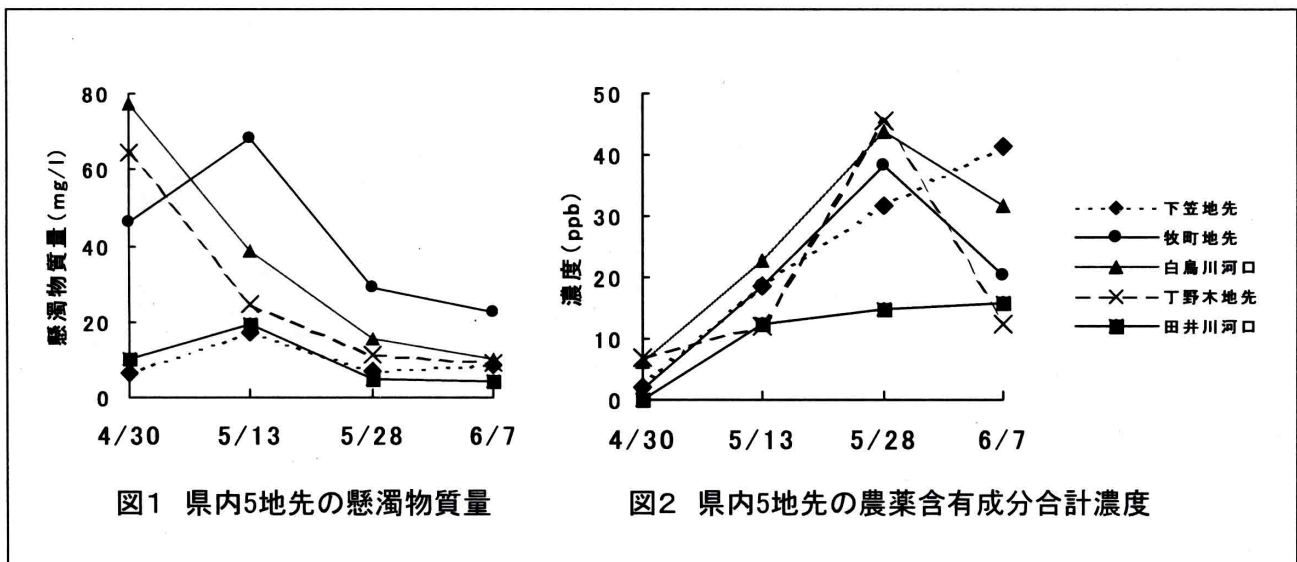
- ・ 県内5地先において、懸濁物質量は4月下旬から5月中旬に多くなり(図1)、農薬含有成分の合計値は5月下旬から6月上旬にかけて高くなった(図2)。

○宇曾川濁水流出状況調査

- ・ 4月5日から5月26日までの調査期間中、透視度30cm以下(懸濁物質濃度25mg/l以上)の日は、27日間であった。

◆成果の活用・留意点

- ・ 排水の流入は、毎年みられる事象であるため、今後も継続してモニタリング調査を行っていく必要がある。



*: 農薬分析は、滋賀県立大学 講師 須藤幹氏